

# ベトナムとの大学間交流に向けた現状と課題 ベトナムにおける階層別ニーズ調査

古川和稔<sup>\*1)</sup>、井川淳史<sup>1)</sup>、柴本勇<sup>2)</sup>、  
野田由佳里<sup>1)</sup>、落合克能<sup>1)</sup>、秋山恵美子<sup>1)</sup>、Donald Glen Patterson<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 聖隷クリストファー大学社会福祉学部介護福祉学科、

<sup>2)</sup> 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部言語聴覚学科

## 【目的】

本研究の目的は、将来の国際交流に向けて、マクロ、メゾ、ミクロの階層別に現実的課題を把握し、その対応を検討することである。

## 【方法】

先行研究の分析、日本国内での情報収集と並行して、現地調査を行った。具体的には、国家レベル、大学レベル、個人レベルの階層別にニーズを把握するとともに、将来の交流協定締結に向けてその対応を検討した。なお、本研究は聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認を得てから実施した。(認証番号 17009)

## 【結果】

A市で得られたインタビューデータを分析した結果、マクロレベル(制度や政策など)では58コード、メゾレベル(地域、大学、事業所など)では28コード、ミクロレベル(研究者、実践者、学生など)では13コードの、合計99コードが得られた。

マクロレベルで得られた58コードは、【高齢化の現状と文化】、【高齢化に対する今後の展望】、【ソーシャルワークの位置づけ】の3つのカテゴリに分類された。メゾレベルで得られた28コードは、【支援の実際】、【日本との交流に対する期待】の2つのカテゴリに分類された。ミクロレベルで得られた13コードは、【職業としての介護】、【日本から学びたいこと】の2つのカテゴリに分類された。

## 【考察】

社会福祉学部として大学間交流を考えた場合、看護系大学との交流の難しさを実感した。ベトナムの研究者レベルにおいては、「専門職としての介護福祉実践」はイメージ出来ないようであり、あくまで「看護の一部分」という位置づけであった。B市ではソーシャルワーク系の大学教員を対象に調査を実施したが、ソーシャルワーク系の大学への日本からのアプローチはあまり多くない様子で、本学社会福祉学部との対等な大学間交流の可能性を感じられた。本学社会福祉学部の特性を考慮すると、今後は、ソーシャルワーク系の大学に焦点を絞って展開を考えていくことが現実的であろう。福祉実践現場との交流に関しては、現実的に展開出来る手ごたえを感じる事が出来た。国際アクティブラーニングのような形式で学生が関わっていくことを主題に、2018年度も調査を継続したい。

## 【論文発表】

- (1) ベトナムとの交流に向けた現状と課題—A市におけるインタビュー調査報告—：古川和稔，井川淳史，柴本勇，他．聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要，第16号，(査読中)．
- (2) 技能実習制度における外国人介護労働者の受け入れと問題—在留資格の違いに見るベトナム国籍介護労働者の聞き取り調査からの考察—：野田由佳里，Donald Glen Patterson，古川和稔．聖隷クリストファー大学社会福祉学部紀要，第16号，(査読中)．